

今後基礎プログラミングでの経験をどのようにして活かすか

まず1年間プログラミングをしてきて、前期は大変辛い思いをした記憶しかなかった。高校ではワードやエクセルの操作など、初歩的な知識しか持っていない自分にとっていきなりプログラミングを作成しろと言われたときは単位を落とすことも辞さない覚悟だったのを覚えている。

まだ最初の方は周りにも自分と同じくらいプログラミングの難しさに動揺を隠しきれていない人達が多く見られたので安心していられたが、だんだん回を追うにつれて実力の差が開くを感じながらの作業は精神的にもとても辛いものがあった。

しかし、そのようなことを経て時間の使い方や役割の分担がスムーズになったのを後期になって充分すぎるくらいに実感した。前期では哀しいくらいに四苦八苦していた自分が嘘のように感じたくらいである。

技術的な面では、上に述べたとおりプログラミングどころかパソコンについての知識が大変乏しかったので、その状態から考えたら自分でもなかなか成長できたと思えるくらいである。特に、普段自分がなにげなく見ていたサイトで使われている仕組みを自分の手で組み立てていくという作業は貴重な体験のように思えた。

特にCGIの仕組みを学んだときに、今までただ文書をWEB上に送付する作業しかしていなかったのととても新しいことをしているように思えたのと同時に、今まで自分が表面上でしかWEBと関ってこなかったのだということを考えさせられる良い機会でもあった。

また、西村先生が何度も授業で仰っていたことだが、これからパソコンがちょっと使えるくらいでは社会ひいては企業ではそれが評価の材料にはなり得ないのだということも考えさせられた。もちろんプログラムを作成する上であまりにも深い知識などは限られた職業のみでしか発揮されないかも知れないが、企業が求めるパソコン操作への理解度のハードルが今までよりも高くなってきていることを充分理解できたように思える。

私は今、金融業界に興味を持ち、その業界への就職に向けて自己研鑽を行ってきているつもりでいたが、話を聞くとどの業界でもパソコンに関する最低限の知識が必要とのことであり、また、その最低限の能力に自分の技能が追いついているのかもたはた疑問である。

先日も県内トップバンクでもある山形銀行のホームページを拝見させていただいた。そこでまず感じたことは経営理念や事業展開に感動したのはもちろんのことだが、それらを利用者や採用希望者がより見やすく、より興味を持ちやすいようにコンテンツ分けやデザインが施されていたことに感動したのを覚えている。

それにまんまと騙されたと言ってしまうのは言い方が悪くなってしまいが、より金融業界、そして山形銀行という企業に対する興味が深まっていった。

そしてそのようにWEBを通じて企業は多くの人と繋がるということと、そこから発信される情報に企業は責任を持たなければならないのだということも深く考えさせられた。

他の企業のサイトを見てもそうだが、より趣向を凝らして消費者や採用希望者が分かりやすいような、また興味がそそられるようなものを作っているのだということをプログラミングの授業を通して改めて考えさせられた限りである。

そして自分なりに就職に向けていろいろと考えを巡らせてきたが、やはりその際に頼っているのもパソコンでありインターネットであった。

今はまだネットでの検索など最低限の能力があればそれでいいと言われてきたが、就職氷河期と言われていた今だからこそ良い人材、それも即戦力となり得るような人材が求められているはずなのである。

最初からWEBデザインをやらせてもらったり、システム面に関する仕事を任せられる訳もないが、いずれキャリアを積んでいけばそういった機会にあたるのは明白である。もちろんその時その時で学んでいけば済むことだという考えもあるが、学ばなければいけないことは常に一つであるわけではない。

結局より優先しなければならない事項が出てくれば、そっちに没入して学びたかったことが後回しになってしまうことだって多々あるだろう。

だからこそ今時間のある学生のうちに学べることは学んでいかなければならないと強く感じた次第である。もちろんそれはプログラミングに関する知識のみならず、もっと広い視野で自己研鑽していければと思う。

そのためにはどの業界に進むとしても、確実に活用するであろうパソコンやそれに関する能力を企業側の面から考えて今よりもより深い知識を得るために学んでいかなければならないとプログラミングの授業で強く実感した次第である。